

壺 建築という記憶装置

個の記憶〈歪み〉の集合体が生成する〈まち〉の記憶

私たちは外部からの刺激を「歪み」を伴いながら、独特の記憶として保存している。家々の隙間を覗き見たり、商店街を歩いたり、日々の暮らしのなかで起きる体験は、複数人が同じ場にいたとしても、異なる記憶となってそれぞれに残っていくのだ。

そうして創り続けられる個々の記憶たちが集まることで「まち」は輪郭を持ち出す。人々の暮らしと紐づいた、他の場所とは全く異なる自分たちの「まち」だけの特別な記憶が生成される。

急速に変化していく大都市東京

私たちの生活は常に都市の再開発の波にさらされている。巨大なマンションや高層ビル群が次々と建設され、まちに形成されてきた記憶は跡形もなく消える。

建築によってまちの記憶を外部的なことで保存し、都市による一斉消去作業から私たちのまちの記憶を守るための住まいが求められる。

貳 旧・日本製紙北王子貨物線跡

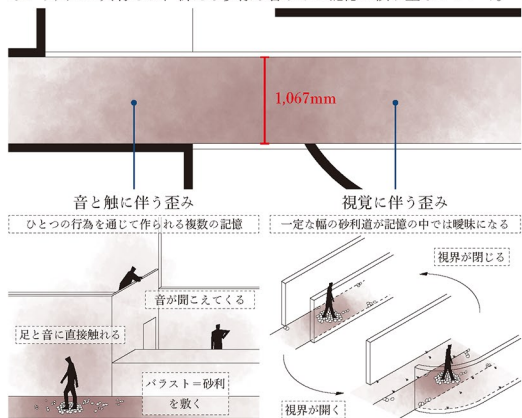


敷地は東京都北区にある廃線跡地。2014年まで貨物列車が走っていたこの線は、廃止後も線路が放置され踏切警報器や線路設備が廃止時のまま朽ちていた。しかし2021年に入ると撤去作業が開始、現在は線路が剥がされ、跡形もなく整備された空き地だけが残されている。

この長細い敷地に線路があり、列車が走っていたことを知る人は少ない。急速に過去の痕跡が消えつつある北王子線跡で、失われた記憶を取り戻し、大都市のなかの人々の居場所を守る集合住宅を提案する。

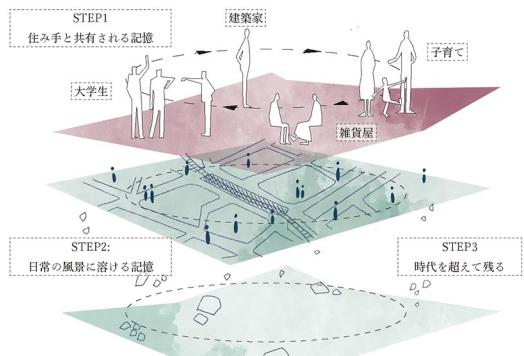
参 過去の断片 1,067mm に生じる新たな歪み

1,067mm という廃線の記憶を持つ細長い小道での個人の体験が歪みを伴いながら人々に共有され、新たな多様な暮らしの記憶が積み重なっていく。



肆 記憶を共有する住まい方

かつて仕事の場としてまちと接続していた線上の敷地に、新たにまちと繋がる雑貨屋や建築事務所といった仕事の場を兼ね備えた集合住宅とする。また公園のように開かれた場も設けることで、まちから取り残されていた場所に流れを取り戻し、人が過去の記憶を再生する手がかりを作る。



記憶の轍

